

年 月 日／

学校 年 組 番 なまえ

2025年4月13日付

コウノトリ、水戸で誕生

市「歴史的、うれしい」 育成管理の事業費CF

国の特別天然記念物コウノトリのカップルが水戸市内に巣を作り、ひなが生まれた。市によると、餌を吐いてひなに与えるしぐさが今月6日以降、複数回確認されたという。市内で営巣やひなの誕生が確認されたのは、1971年に国内で絶滅してから初めて。識別用の足輪から、カップルは神栖市から移動してきたとみられる。水戸市はひなの性別判定や血液検査、足輪の装着を行う。事業費約100万円を集めるため、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング（CF）を14日に始める。

同市内に巣を作ったのは、がしたりする行動を確認。今 水戸市内での飛来が確認されたのは、旧ソ連から譲り受けた6羽を基に人工飼育下で繁殖を重ね、数を増やした。2005年に放鳥を始め、野外に住む個体数は452羽（2月末時点まで回復した。子育て中のコウノトリは警戒心が強く、市は営巣場所を公開しない。市担当者は「静かな環境で安心して子育てできるような協力してほしい。もし見つけても、150メートル以上離れて観察し、交流サイト（SNS）などで場所を発信するのは避けてほしい」と呼びかける。

市によると、2羽は行方不明。市は地上から30メートル以上の高さがあり、辺りには田んぼが広がる。市担当者は「歴史的なことで驚くと同時に、水戸市の環境を気に入ってくれたのがうれしい」と歓迎した。コウノトリは、全長約1メートル、羽を広げると約2メートルになる大型の鳥類。かつては国内に広く分布していたが、太平洋戦争時に巣を作るアカマツが切られ、当時の農業に含まれていた水銀などの影響でコウノトリは減少。71年に絶滅した。



水戸市内で営巣している「コウノトリ」（いずれも市提供）

市は5月21日ごろ、兵庫県立コウノトリの郷公園などの協力を得て、ひなの性別判定や血液検査、足輪の装着を行う。事業費はCFで賄う予定で、ひなやコウノトリの写真を市のホームページやCF上のサイトなどで随時公開する予定という。（木村優斗）

【問1】 水戸市でコウノトリの営巣やひなの誕生が確認されたのは、何年ぶり？

54年ぶり（最後に確認されたのが1971年）

【問2】 コウノトリが神栖市から飛来してきたことがわかったのは、なぜ？

個体識別用の足輪から判明

【問3】 水戸市は、ひなの性別判定や血液検査、足輪の装着などにかかる費用はどうする予定？

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングで集める予定



よ
読めない文字は、かぞくや、ともだちにきいてみてね